



Today's program is so fun. I never thought to meet some new friends and have some fun events. I felt I relieved and feeling relax.

楽しかった。新しい友達に会うなんて、楽しい時間を持てるなんて、考えたこともなかった。気持ちが落ち着いて、楽になったような気がしました。

—うた編に参加した技能実習生の感想—

#### 外国人の課題は日本人 終わり

令和5年度「北野町で会いましょう」は、うた編8月20日(日)、ダンス編10月29日(日)に開催。参加したい人は同プラザ(TEL0942-36-3084、FAX0942-36-3087)にお問い合わせください



冒頭から音楽をかけ、詳しい説明もなく始まったダンス編。進行役の動きを真似しつつも思い思いに体を動かすと、自然に笑顔が生まれていました

体を動かし、だんだんと集団の動きへ。近くの人と手をつないで離れ、別の人となぐ。ペアになって背中を押したり手を引き合ったり。進行を務める振付家の山田うさんは、ダンスは言葉を使わない分、動きや力から相手を感じ合うことができると言います。「小さい子は十分な言葉を持っていないけど、コミュニケーションができています。体を使った意思疎通は、どこかそういった懐かしさがあるんじゃないかな」。

**「ピントがずれると」「一括りに」**

宮崎さんは、街に劇場がある価値をみんなで共有したいと願っています。「観劇や文化活動の発表でプラザに来る人は一部。文化芸術は交流の促進や知らない誰かとつながるきっかけにも。そういうことを多くの人に伝えたい」。劇場を飛び出して、地域や人の関係に変化をもたらす。挑戦は続きます。

.....

外国人をテーマに語るとき「経済を支えている」「労働力として欠かせない」という面に注目されやすい。でも、そのままの視線を暮らしに向けてしまうと、外国人という「カテゴリー」に。ピントがずれると一括りになり個人を見落としがちです。まずは隣人として名前を認識する。人に焦点を合わせるきっかけを、日常に生むことから。

(担当・フトシ)



(右)手のひらを合わせて力を掛け合う参加者の2人。互いに、相手の動きを目線や表情などで想像しないとバランスが取れません。言葉だけがコミュニケーションではないことを物語っています。(上)ダンスが終わると、自然と車座になりおしゃべりが始まりました。実習生と学生は最初からこの距離感。打ち解け合う方法は多様です

